

令和2年度事業報告

I. はじめに

1. 事業概況

令和2年度のVICS対応車載機出荷台数は378万台となり、事業計画値の360万台は達成したものの、対前年度比較で12%の減少となった。減少の主な要因は、新型コロナウイルス感染拡大による消費の減少であり、感染の鎮静化が見通せない中、引き続き今後の動向を注視していくものとする。

また、平成27年4月からサービスを開始したVICS WIDEに対応する車載機出荷台数は約340万台で、VICS対応車載機出荷台数の90%を占め、各メーカーにおけるVICS WIDE対応への切り替えが順調に進み、VICS WIDEユーザーも順調に増加していることを確認できた。

なお、VICS対応車載機累計出荷台数は令和3年3月末時点で約7150万台と7000万台を達成、このうちVICS WIDE対応車載機累計出荷台数は同じく約1651万台となった。

2. 社会の動き

中長期的な技術トレンドとしてのCASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）の進展に加えて、新型コロナウイルス感染症の防止対策に関連してビッグデータの活用が進み、電子決済、テレワークが大きく普及した。一方で実際の人の移動が大きく減少するとともに移動手段の変化もみられる。このような複雑な状況が今後の交通にどのような影響を与えていくのか注視していく必要がある。

II. 事業遂行状況

1. 概況

令和2年度は、以下の3つの重点事業に経営資源を集中させ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも概ね計画通りに完了させることができた。

(1) 提供情報内容拡充と品質の維持・向上

プローブ情報総合化については、関東1都6県における実証実験を予定通り4月に開始した。その結果、渋滞情報等を提供できる道路延長が従来の約2倍になること、突発的に発生する事象による渋滞が的確に捕捉できること、等が確認された。これらを踏まえ令和3年度以降も1都6県の実証実験を継続するとともに、さらに実験地域の拡大を進めることとした。

(2) センター及び放送所システムの効率化・高度化

システム2.0（センターシステム及び放送所設備）の導入・運用については、令和2年8月には京橋センターのバックアップの機能を有する大阪第二センターを完成させ運用を開始した。

放送所設備については、令和2年度内に24か所（全国57か所中）の導入を完了した。

（3）新たなニーズへの適切な対応

VICS事業を取り巻く社会経済情勢や技術動向を調査し、VICSセンターの役割を整理した。

2. 具体的施策

（1）提供情報内容拡充と品質の維持・向上

①プローブ情報総合化の効果検証と利用促進

交通円滑化への寄与と利用者利便性の向上等を目的としたVICSの道路交通情報の情報改善として、民間プローブ情報を総合化し、活用する実証実験を日本道路交通情報センター（以下JARTIC）と共同で関東1都6県にて令和2年4月より開始した。

この実証実験を通して、以下のような成果を得ることができた。

- ・4月より、1日平均で約12.6百万km・台のデータを処理し渋滞度および旅行時間を継続的かつ安定的に生成
- ・渋滞度および旅行時間の提供量は車の利用が多い時間帯では1都6県の平均で従来の約2倍に増加
- ・生成した旅行時間は、複数区間での比較において、実測値と概ね良好に一致することを確認
- ・今まで情報提供がされていない区間でも、事故や火災等の突発的に発生する事象による渋滞が的確に捕捉できることを確認

また、上記の検証を実施するにあたっては、以下のような取り組みを実施した。

- ・実験期間中、プローブ総合化情報から生成した渋滞度(渋滞/混雑)の確からしさをユーザー視点で調査することを目的に、11日間、181ヶ所で実走行による評価を実施
- ・収集、生成したビックデータを分析し、分かりやすく表示するための検証用ツールを本実証実験に合わせて開発し、運用

一方で、実証実験を実施することで明確になってきた課題もある。例えば、短いVICSリンクでは信号待ちの影響を受けて旅行時間が長くなり渋滞や混雑が発生していなくても頻繁に渋滞や混雑が表示されやすい傾向が判明した。そのため、渋滞度判定については交通実態やドライバーの感覚により合致できるような判定を実現するための対策に着手した。

これらの結果を令和2年9月の実証実験検討会で共有し、1都6県の10月以降の実験継続と令和3年度以降の実験地域拡大の準備開始について合意を得た。これを受け、総合化サーバーの全国対応等、実証実験の全国展開のためのシステム構築を開始した。また、プローブ情報源各社からの全国分のデータ入手に関しても各社と交渉を進め、継続的な入手について合意を得た。

②新たなサービス実現

「大雪大雨予防的通行規制予告」

地方整備局が気象状況により規制実施を事前判断した場合、その情報を規制前予告として VICS 車載機に提供する機能については、北陸地方整備局と接続試験を実施し、車載機での表示を含め、正常動作を確認した。

「Jアラート弾道ミサイル情報」

Jアラートの弾道ミサイル発射情報を受けて車載機に表示する機能については、モデル県警として広島県警との接続試験を実施し、車載機での表示を含め、正常動作を確認した。

「イベント規制予告」

大規模イベントに伴い計画されている規制情報 VICS 車載機に表示する機能（開発・試験済み）については、当初運用予定であった「東京2020」が昨年度開催されなかったため、実施しなかった。

「駐車場情報の拡充」

民間駐車場のうち公共的役割が高い駐車場の満空情報を追加し、従来の約1000か所から約3000か所へと、情報の拡充を行った。

③情報の信頼性向上

車両感知器などの整備に役立ててもらうため今年度についても VICS リンクごとの情報の提供状況を分析し定期的にとりまとめ、関係機関に報告した。

VICS リンク年度更新作業が円滑に行われるように VICS リンク解説書を作成し関係機関に説明、提供した。

(2) センター及び放送所システムの効率化・高度化

①システム2.0の開発・運用

システム2.0（センターシステム及び放送所設備）の導入・運用については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらもベンダーとの協力・連携によりほぼ予定どおり進めた。令和元年度末までに運用を開始した京橋センターシステムに続き、令和2年8月には京橋センターのバックアップの機能を有する大阪第二センターを完成させ運用を開始した。

また、今年度においても適切な保守・監視・障害時の迅速な対応により、システム2.0並びに旧システムについて例年同様に円滑な運営を確保した。

放送所設備については、関東1都6県の8放送所で令和2年4月よりシステム2.0の運用を開始し、令和2年度内に24か所（全国57か所中）の導入を完了した。

またシステム2.0と旧システムとの並行運用にあたり、運用監視フローの改善と旧システムの老朽化への対応に努めた。

②旧システムの維持改善・効率化

JARTIC と合同で実施している京橋から大阪第二センターへの切り替え運用を想定した訓練やNHK と連携して VICS 墨田放送所の被災による障害発生を想定した

訓練を継続実施し、ノウハウの継承と災害対応マニュアルの一層の充実および障害発生時の対応力強化を図った。

また老朽化した旧システムの安定運用を継続するため、きめ細かな保守、メンテナンスを実施し、障害発生 of 未然防止と素早い対応に努めた。

(3) 新たなニーズへの適切な対応

①VICS センターの役割と対応に関する調査研究

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期プロジェクトへ参画、その取り組み内容をベースに、自動運転社会の推進に向けて VICS センターが情報提供を通じて貢献できる役割を整理し、実現性・課題の検討をおこなった。具体的には、高速道路分岐部における車線別渋滞末尾位置情報提供に関する情報量、配信方法の可能性を調査した。また土砂災害警報情報や避難関連情報等に関するオープンデータの活用による情報提供の検討を進めた。

②時代の変化に応じた外部環境・ニーズの把握と対応

前年度に引き続き、米国、欧州における MaaS&Smart city 交通情報実態調査を実施した。

また、全国 11,700 人を対象にした VICS 認知および交通情報ニーズの WEB 調査を前年度に引き続き実施した。調査の結果、昨年度の調査結果と同様に情報提供エリアの拡大と精度の向上を望む声が強かった。またカーナビとスマートフォンのナビゲーションアプリの利用状況については、利用転換の大きな変化は確認できなかった。

(4) 継続施策の改善・進化

①知的財産の確保および財務基盤強化

VICS 技術情報の管理対策を徹底するため、前年度に引き続き契約先における VICS 技術情報の管理状況に関する調査を実施し、課題確認と改善を契約先とともに進めた。

②広報・普及促進活動の一層の推進

関東 1 都 6 県で開始したプローブ情報総合化実証実験に多くのドライバーが関心を持ってもらえるようプレスリリースをおこなうとともに、ホームページ内に「実証実験スペシャルサイト」を開設した。当サイトでは、実証実験をわかりやすく説明した動画、実際に道路を走って体験したことによって得られた効果事例、ユーザーの声等を掲載し、実証実験の認知度向上を進めた。

またステークホルダー向けの情報発信 (情報公開) として、月間機関誌 VICS NEWS の発行を継続した。

あわせてユーザーの声を収集するために、問い合わせ窓口 (コールセンター)、VICS サポーター制度を引き続き運営し、VICS 情報の改善等に努めた。特に、問い合わせ窓口については、実証実験を体験したユーザーの声をより多く集めるため、暫定的に土日祝日も対応することとした。

③業務管理等

事業計画から展開・具体化した業務日程計画（アクションプラン）により進捗管理を行うことで事業計画の進捗状況の「見える化」を徹底し、「プローブ情報総合化実証実験」、「システム 2.0 の開発」等の年度を跨ぐ大規模施策の進捗状況の共有に役立てた。

また、シンクライアント PC の配布等テレワーク環境の整備を進め、職場環境の改善を進めるとともに、職員が交替しても VICS センターの基本方針が円滑に理解されるように、事業運営方針や行動規範、ブランドスローガン「渋滞ゼロ社会へ。」等を新規赴任者等に伝えていく体制を確立した。

令和元年度決算をもって、公益目的支出計画の実施を完了した。このため、同計画の遂行のために要請されていた会計区分を見直し、令和 3 年度予算から公益法人会計基準（平成 20 年基準）の原則に合わせた会計方針とした。

税務申告の電子化を推進し、国税では所得税にかかる法定調書、地方税では償却資産税と役職員の住民税について電子申告に移行し、総務業務の効率化を進めた。

Ⅲ. 事業計画遂行のための会議の開催

(1) 理事会

- ①令和2年 5月28日 令和2年度第1回理事会
第1号議案 令和元年度事業報告(案)並びに令和元年度収支計算書(案)及び令和元年度計算書類(案)承認の件
第2号議案 令和元年度公益目的支出計画実施報告書(案)承認の件
第3号議案 評議員候補者2名推薦につき承認の件
第4号議案 令和2年度定時評議員会招集の件
① 令和元年度計算書類(案)承認の件
② 理事16名選任の件
③ 監事3名選任の件
第5号議案 評議員選定委員会委員1名選任の件
以上の書面審議が行われ、いずれも原案通り承認された。
報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について(書面報告)

- ②令和2年 6月18日 令和2年度第2回理事会
第1号議案 理事長、専務理事及び常務理事選定の件
第2号議案 業務執行理事の業務分担の件
書面審議により原案通り承認された。

- ③ 令和2年11月10日 令和2年度第3回理事会
報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

- ④ 令和3年 3月12日 令和2年度第4回理事会
第1号議案 令和3年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件
第2号議案 一般財団法人道路交通情報システムセンター 会計処理規程の件
第3号議案 評議員選定委員1名選任の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。
報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

(2) 評議員会

- ① 令和2年 6月18日 令和2年度定時評議員会
第1号議案 令和元年度計算書類(案)承認の件
第2号議案 理事16名選任の件
第3号議案 監事3名選任の件
以上の書面審議が行われ、いずれも原案通り承認された。
報告事項 令和元年度事業報告について
令和元年度公益目的支出計画実施報告書提出について
令和2年度事業計画並びに令和収支予算について
評議員選定委員会委員1名選任の件

(3) 事業報告会

開催中止

(4) 事業懇談会

- ① 令和2年 5月20日 令和2年度第1回 <書面報告>
- ② 令和2年11月28日 令和2年度第2回
- ③ 令和3年 3月 4日 令和2年度第3回 <オンライン併用開催>

(5) 車載機連絡会

- ① 令和2年 5月20日 令和2年度第1回 (通算第72回) <書面報告>
- ② 令和2年 8月26日 令和2年度第2回 (通算第73回) <書面報告>
- ③ 令和2年11月 4日 令和2年度第3回 (通算第74回) <書面報告>
- ④ 令和3年 2月24日 令和2年度第4回 (通算第75回) <オンライン開催>